

□ その他

第13号(平成26年9月15日)

○広島土砂災害発生！

8月20日未明に安佐南区と安佐北区の山裾の団地に甚大な土砂災害が発生。災害の要因として局地的な豪雨、山裾や谷あいの造成地、水を含むと崩れやすい真砂土地盤、避難勧告の遅れ等が重なった。

高度経済成長期に入った1960年代から全国各地で郊外にベッドタウンがミニ開発された。乱開発を防ぐため1969年に現行の都市計画法が施行され、大規模な開発行為は県知事等の許可が必要となる。

平地の少ない広島はどんどん郊外へ、しかも山裾から中腹にかけてスプロール化が進み、今回被害を受けたエリアも1969年以前に造成着手された団地が多く含まれる。

今回の土砂災害は自然の猛威による天災と同時に災害が予測しうる人災でもあった。この際、全国で山裾の造成団地の総点検を行い、危険な個所は移転勧告を出すべきである。勧告に従うか否か、住民の判断に委ねられるが、住み続ける場合は相当の覚悟が求められる。高齢化と人口減少の進行により、郊外から都心回帰の傾向が助長されることになりそうだ。



読売新聞(8/26付)より

第21号(平成28年1月15日)

○都心のまちづくり『ひろしまワールドカフェ』開催

広島県と広島市は連携して今年度と来年度の2ヵ年で「**都心活性化プラン** (仮称)」を策定する。そのため昨年11月29日に「みんなで話そう～だえんの未来～」と題して、都心のまちづくり「ひろしまワールドカフェ」を開催した。

現在再開発が活発な広島駅周辺地区と地盤沈下が懸念される紙屋町・八丁堀地区を楯岡で一体化する都心の将来像を探るため、広く市民の意見を取り入れようという初の試み。



トークセッション

第1部 基調講演

・小林重敬氏(横浜国大名誉教授)による基調講演は、都心部における拠点間連携の先行事例(大阪市・名古屋市・福岡市)と官民連携のまちづくり手法としてのエリアマネジメントの考え方等を紹介。

・大阪市等も駅周辺の再開発による既存の中心市街地の地盤沈下が問題となり、お互いの地区連携を強化する方策としてエリアマネジメントを採用。大阪市はエリアマネジメント促進条例を制定し、そのエリアの地権者(事業者・住民等)から課金(税金)を取り、その金を民間のマネジメント組織に渡してエリアの管理運営・イベント等の実施を委ねている。

・行政が行うハード面の社会資本整備と民間が主体となって行うソフト面の管理運営が揃って始めて本来のまちづくりができる。欧米のエリアマネジメントのBIDとTIFの説明は省略。

第2部 トークセッション

・湯崎県知事と松井市長も登壇し、パネリストとして野村謙二郎氏(前カープ監督)と松本裕美子氏(タレント)を交えて、広島の街の印象や魅力的な都心にするための提案について討論。

・野村氏は野球やサッカー等のスポーツの活躍による貢献を、松本氏はだえんの中に誰もが気軽に集える場所を提案。

・湯崎知事は歩いて楽しい街とするため、歩道沿いの建物は人がアクセスしやすい環境作りと広島らしい景観作りを提案。現在のビルやマンションは関係者以外を寄せ付けない。

・松井市長は広島駅前の猿猴川の環境整備とそれに繋がる旧西国街道の活用を紹介。昭和初期に描かれた宮島から広島市街地全体の俯瞰図を示し、まちづくりのガイドラインを作って、広島のみち全体のイメージとエリア毎の役割分担を市民が共有できるようにしたい。

第3部 ワールドカフェ

トークセッションを聴講した人の中から100人程度が残り、5～6名のグループに分かれて自由な対話を行い、メンバーを入れ替えながら対話を続けて意見を集約していく。

ファシリテーターはひろしまジン大学学長の平尾順平氏。参加者もワールドカフェ方式に慣れていないこともあり、思うような成果は上がらなかったかもしれないが、これからに期待したい。今回は会場が狭く、カフェにいたようなリラックスした雰囲気が出せなかったのは反省点である。

第26号（平成28年11月15日）

① たてものがたりフェスタ2016

広島県内の魅力ある建物で各種イベントを楽しむ「たてものがたりフェスタ2016」が平成28年10月15日（土）～11月13日（日）の30日間開催。特に11月12日・13日は**公共建築の日**（11月11日）を記念して、中国地方整備局、広島県及び広島市などが連携し、公共建築の果たす役割を広く知ってもらうため、公共建築物のうち通常立ち入ることができない部分などを一斉に公開するイベントを行った。



広島現代美術館の公開風景

「ひろしまたてものがたり」は県内の魅力ある建物を発掘・発信する県民参加型のプロジェクトとして、広島県が平成25年から実施。モダンで美しい高層ビルから、情緒あふれるレトロ建築、貴重な国宝、世界遺産まで100の建物を選定し、広島らしい地域の宝として国内外に発信している。

＊たてものがたりフェスタ2016（広島県）：

<http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/tatemonogatari/festa2016.html>

マツダスタジアム（広島市民球場）もベストセレクション30に選ばれ、人気ランキングも第9位。今年のカープは25年ぶりにセリーグを制覇し、クライマックスシリーズを制し、期待が膨らむなか日本一を目指したが、惜しくも敗退。しかし、市民に夢と希望を与えてくれた功績は大きく、市は球団に広島市民賞を贈った。

選手たちの活躍と熱心なファンによる応援の賜物であるが、マツダスタジアムの持つ空間の魅力が寄与したともいえる。ただ試合を見るためではなく、そこに足を運ぶワクワク感がチームと観客を一体化させ、選手も普段の力以上のものを発揮し、そのプレーにファンは歓喜した。観客動員数も立地の良い旧市民球場より大幅に増加したのはハードとソフトの相乗効果。

球場に限らず、市民が幅広く利用する公共建築は親しみやすく、愛される器になっていかなければならない。そのことを普及するための公共建築の日及び公共建築月間のイベントである。広島のみちのあちこちに市民に親しまれる空間が増えれば、愛着を覚え、誇りを持てるまちになり、市民の意識が変わる。ひろしまは住みよい魅力的なまちになっていくであろう。

11月12日は午前中に基町高層アパート見学会があり、午後は設計に携わった建築家藤本昌也氏を交えたシンポジウム「広島基町高層アパートと大高正人」が開催された。多数の参加者があり、有意義な意見交換がなされた。次号でシンポの詳細を紹介する予定。

第28号（平成29年3月15日）

③ 広島の「都心活性化プラン」の素案公表

広島県と広島市は1月に被爆100年後（2045年）の市中心部の将来像を描く「都心活性化プラン」の素案を公表。2月に市民から意見を募集し、3月末までに策定する。

JR広島駅周辺と紙屋町・八丁堀地区を中心とした楕円形のエリアを6ゾーンに区分けし、それぞれの特性を生かした施策を進めて都心の魅力をアップさせる方針を掲げている。

目玉施策としては、都心に存在する平和記念公園、広島城、広島市民球場、比治山公園などの地域資源を巡る「**都心回廊**」を設け、賑わいと交流を全体に広げていくことを目指している。

2030年までに取り組む13の具体的施策を打ち出しているが、実行に移すための体制作りも喫緊の課題である。関係する町内会や市民団体などの住民と企業などの経済界と行政の緊密な連携・協働が求められている。

第30号（平成29年7月15日）

② セトラひろしまがまちづくり法人の国土交通大臣賞を受賞

国土交通省は、地域の環境や価値の向上のため先進的に取り組んでいるまちづくり法人を表彰している。この度、セトラひろしまが「まちの活性化・魅力創出部門」で国土交通大臣賞を受賞。大イノコ祭りやアリスガーデン・パフォーマンス広場AH！など、新しい市民文化の創出などの成果を上げていることが高く評価された。

第31号（平成29年9月15日）

③ セトラひろしまが受賞記念パーティ開催

セトラひろしまは、「まちの活性化・魅力創出部門」で国土交通大臣賞を受賞したのを機に、この1年間に受賞した数々の賞を記念して祝賀会を7月18日、パルテにて開催した。

大イノコ祭りやアリスガーデン・パフォーマンス広場AH！などを支えたアーティストやボランティア、商店街、行政、ほか関係者約70名が参加。

AH！から育った書家や歌手たちが芸を披露して会場を盛り上げ、セトラひろしまの若狭理事長がセトラ誕生から15年間の活動記録を報告し、和気あいあいとしたパーティとなった。



若狭理事長挨拶

以下、受賞名

広島市環境美化活動功労賞（地域環境プロジェクトチーム）

広島市みどり生きもの協会賞（ソーシャルガーデナー倶楽部）

第32回県民文化奨励賞

ひろしま街づくりデザイン賞（大イノコ祭りを支える市民の会）

まちづくり法人まちの活性化・魅力創出部門 国土交通大臣賞



パーティ会場